

日系ブラジル人ら解雇撤回で4時間スト

— 労災事故の派遣先責任対応、給料明細に訳をつけるなど前進 —

9月20日朝、アサゴエ工業(株)にナイスプランニング(株)から派遣されている日系ブラジル人らが加入する岡山地域労働組合の支部は、解雇撤回などの要求を掲げ、4時間のストライキでたたかいました。今年7月ストで有休取得による皆勤手当カット撤廃などを前進させました。

工場門前でのピケに派遣先、元の労働者、業者などの車がストップし、一般道まではみ出しました。会社は、昼過ぎに本日の休業を決め、中に入っていた労働者を帰宅させました。

会社の活動家解雇攻撃

8月初め、団体交渉員が業務上で腰に激痛が走り約1月休みました。会社は、病院に運び治療費も払ったにもかかわらず、この休みによる出勤率が悪い、連絡をしているにもかかわらず、「無断欠勤」との理由を付けて9月に「雇止め」としました。

また、それまで安全靴と制服を給料天引きしていた労働者に「現金でないと渡さない」と拒否し、抗議し、派遣先事務所に行こうとする労働者を両手を広げて遮り、「一緒に行こう」と肩を触ったことを「暴行」としてビデオに撮り、警察に通報、逮捕させました。警察では、4時間後「明日午前、制服、安全靴を渡す」として会社と確認したものを実行せずに解雇しました。

安全・人権無視の労災対応—被災者を派遣会社社員が来るまで食堂に放置、骨折してもすぐ仕事

今年7月13日午前4時頃、リフト操作無資格者によって起きた、派遣労働者の足のかかとの負傷事故被災者を食堂に放置し、同僚の派遣労働者が自分の車で病院に運びました。夜勤時は、派遣先従業員しか現場におらず、帰宅していた派遣元担当者が、病院に来たのは午前5時半を過ぎていました。同様のことは、今年6月19日にも起きています。

6月23日、「左小指熱傷」で60日通院加療と診断された労働者を7日有給休暇などで休ませ、翌日から「片手で軽い作業をせよ」と出勤させて、労災報告、申請をしていません。

中指第1指骨骨折、また手切断で17針縫った労働者を治療終了直後に仕事につかせ、1人は、その後傷口が悪化して休業しています。

これは、会社が労災扱いせず休業補償がなく、健康保険にも加入していなかったため傷病



手当金もなく無収入となるために、否応なく働いているものです。また、「皆勤手当」が1時間当たり200円(7月から150円)となっていることも影響しています。診断内容が通訳や翻訳がないために、よくわからないものも多くいます。

また、就業時間中に、派遣先の柔道有段の労働者から投げつけられ、背中を蹴り飛ばされて、5日間休業した労働者に通訳も付けず「示談書」にサインさせ、労働災害報告、申請をしていない例もあるなど安全・人権無視をしています。組合の要求に、労災対応は「派遣先に救急車を呼んでもらい対応する」など一定の前進を勝ち取りました。解雇については、既に1人は提訴し、もう1人も裁判準備をしています。

派遣先に団交要求

派遣先にも、同様の要求、安全委員の任命、直接雇用を求め、団交を要求しています。